

老年期における色彩感情の研究(7)－慣用色名・系統色名による地域別特性－
 夙川学院短大 橘喬子 宇部短大○椋梨純枝 就実短大 小田中久良子
 東京家政学院短大 井澤尚子 北海道教育大函館校 斎藤祥子
 長崎県立女子短大 青木迪佳 熊本大 高森壽

目的 人間生活を豊かにする色彩は、現代広範囲に、多量に視覚に入る。多くの高齢者がこれらの色彩に対して如何に捉えているか、慣用色名・系統色名について、基礎的調査を行い、地域での嗜好色・嫌悪色を検討すると共にその特性を明らかにした。

方法 (1)対象 65歳以上の男女
 2100名 (2)調査時期 (3)手続き
 (4)色彩の観察 (5)観察条件：5.6 報
 と同様 (6)地域別人数 (7)調査内容
 質問紙法、試料 JIS標準色票80色
 を嗜好色・嫌悪色各1色選択する。

群	男	女	老齡前期	老齡後期
1	7 4	2 2 6	1 6 5	1 3 5
2	1 5 3	3 7 4	3 4 3	1 8 4
3	1 3 7	3 3 6	3 1 2	1 6 1
4	2 1 0	5 9 0	5 1 4	2 8 6
合計	5 7 4	1 5 2 6	1 3 3 4	7 6 6

結果 慣用色名(系統色名)での嗜好は地域別では1群コバルトブルー(青)2群砂色(灰黄)3群藤色(くすんだ青紫)4群あやめ(濃い青みの紫)の各色を最も好み、嫌悪色は1・3・4群とも墨(黒)2群スレートグレイ(暗い灰青)であった。相関は地域間では嗜好色は1・2群、2・3群はほぼ同じで、嫌悪色は各地域とも同じであった。地域間の嗜好色ではやや弱く、嫌悪色は強い。また系統色名は嗜好色・嫌悪色とも暗い・鮮やかさが強く、特に嫌悪色で無彩色が強い。